

山王海ダム流域の水田水温と気温・日照時間の関係（１９９６年）

早期警戒情報においては、気温・日照時間・降水量が冷害危険度地帯別に過去７日間の移動平均で示されています。これらのデータと水田水温（午前９時測定）との関係を整理してみました。山王海ダム流域にもっとも近い監視地点アメダス紫波を使用しました。

１９９６年度は水温測定が日単位で測定されたため、過去７日間の移動平均を用いて関係を図示することにします。

１）日最高気温と水田水温の関係（図１参照）

- ・最高気温が２５度を超えたのは７月１６日で、ほぼ幼穂形成期にあたる。
- ・７月１６日以前においては、最高気温が２５度以下の時期では水田水温と最高気温との間には２，３度程度の差はあるが、両者はほぼ同じよう値で推移した。
- ・最高気温が２５度を超えると、データの欠測が多いが、水田水温は最高気温よりも低く経過した。

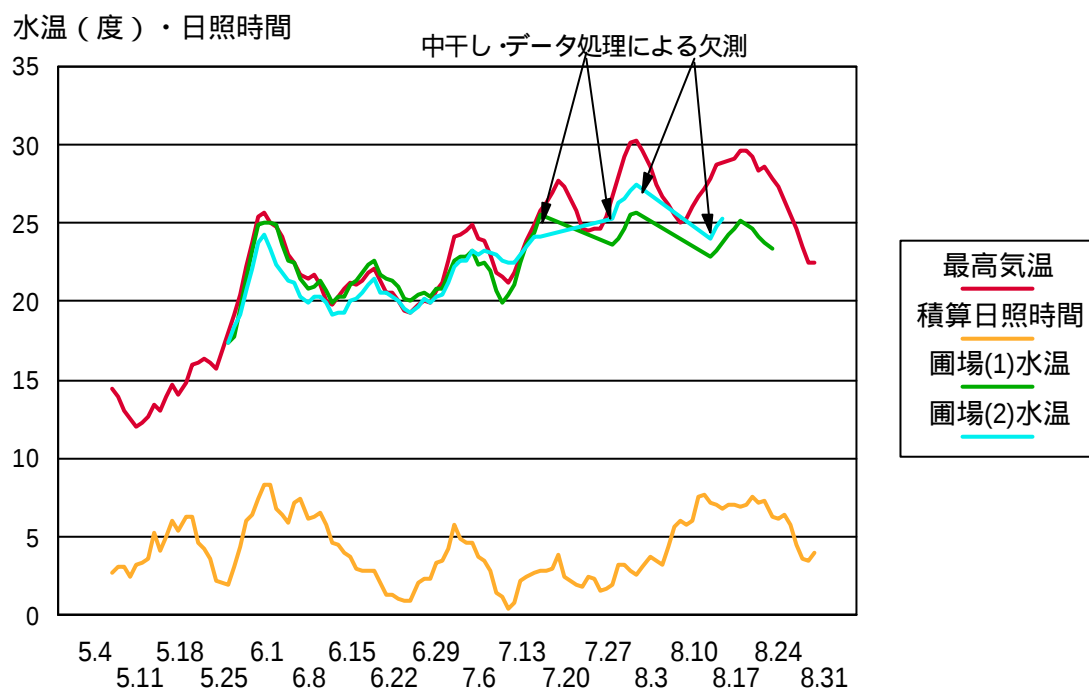


図１ アメダス紫波の最高気温と水田水温（午前９時）の推移
１９９６年度
過去７日間の移動平均

２）日最低気温と水田水温の関係（図２参照）

- ・最低気温が１７度を超えたのは７月１５日で、ほぼ幼穂形成期にあたる。
- ・水田水温は全期間を通して最低気温より高く、５，６月の生育初期においてその差が大

きい傾向がみられた。

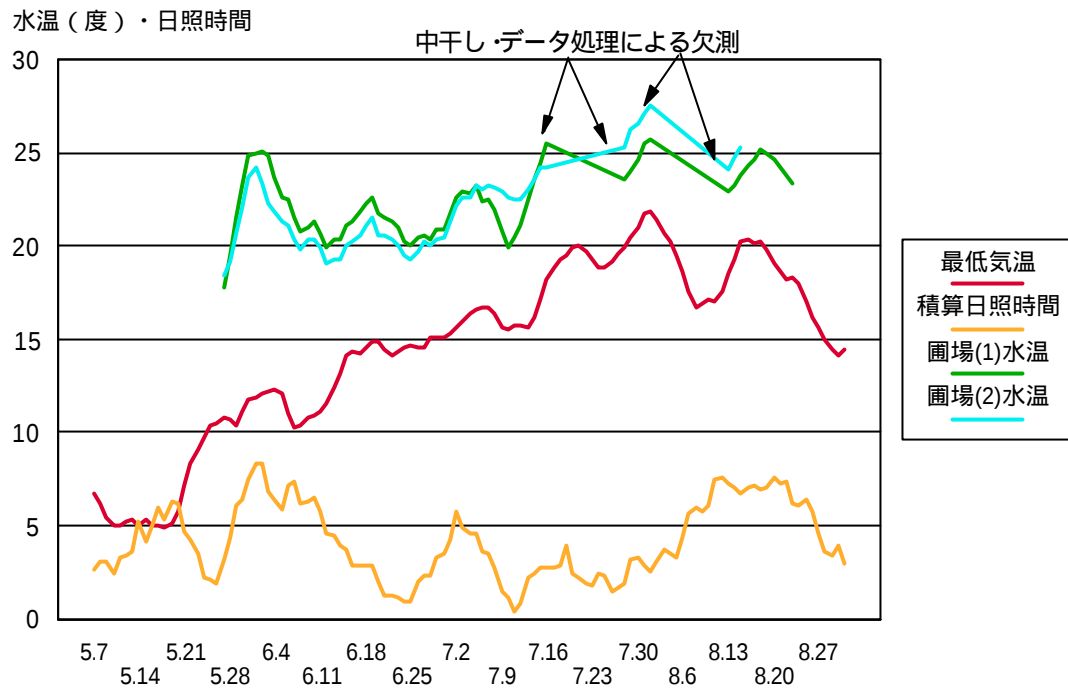


図2 アメダス紫波の最低気温と水田水温(午前9時)の推移
1996年度
過去7日間の移動平均

3) 日平均気温と水田水温の関係(図3参照)

- ・ 平均気温が20度を超えたのは7月15日で、ほぼ幼穂形成期にあたる。
- ・ 7月15日以前においては、水田水温は平均気温よりも常に高く維持された。

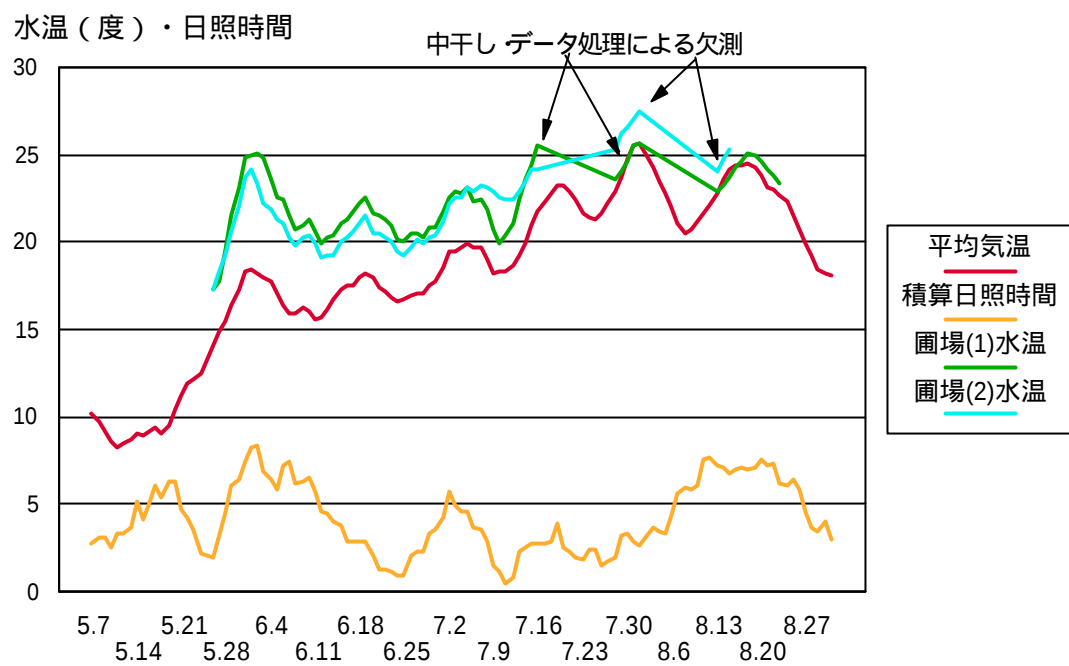


図3 アメダス紫波の平均気温と水田水温(午前9時)の推移
1996年度
過去7日間の移動平均